

犬山城下町地区

(愛知県犬山市) 第1回まち交大賞 計画大賞

計 画 期 間 平成16年～25年

面 積 252.2ha

交付対象事業費 1,996百万円

市人口 73,166人 (地区内人口 12,253人)

ポイント 歴史的資産を活かした賑わいとふれあいのある「歩いて暮らせるまち 歩いて巡るまち」

地区概要 本地区は、国宝犬山城の城下町として歴史性を有し、城下町が形成された当時の町割りや木戸跡、伝統的な町並み等が多く残されている。

目 標 犬山城や町割り、町屋等の歴史的資産を保全・活用して、魅力と個性のある賑わいのあるまちづくりを進め、将来の世界文化遺産登録を目指す。

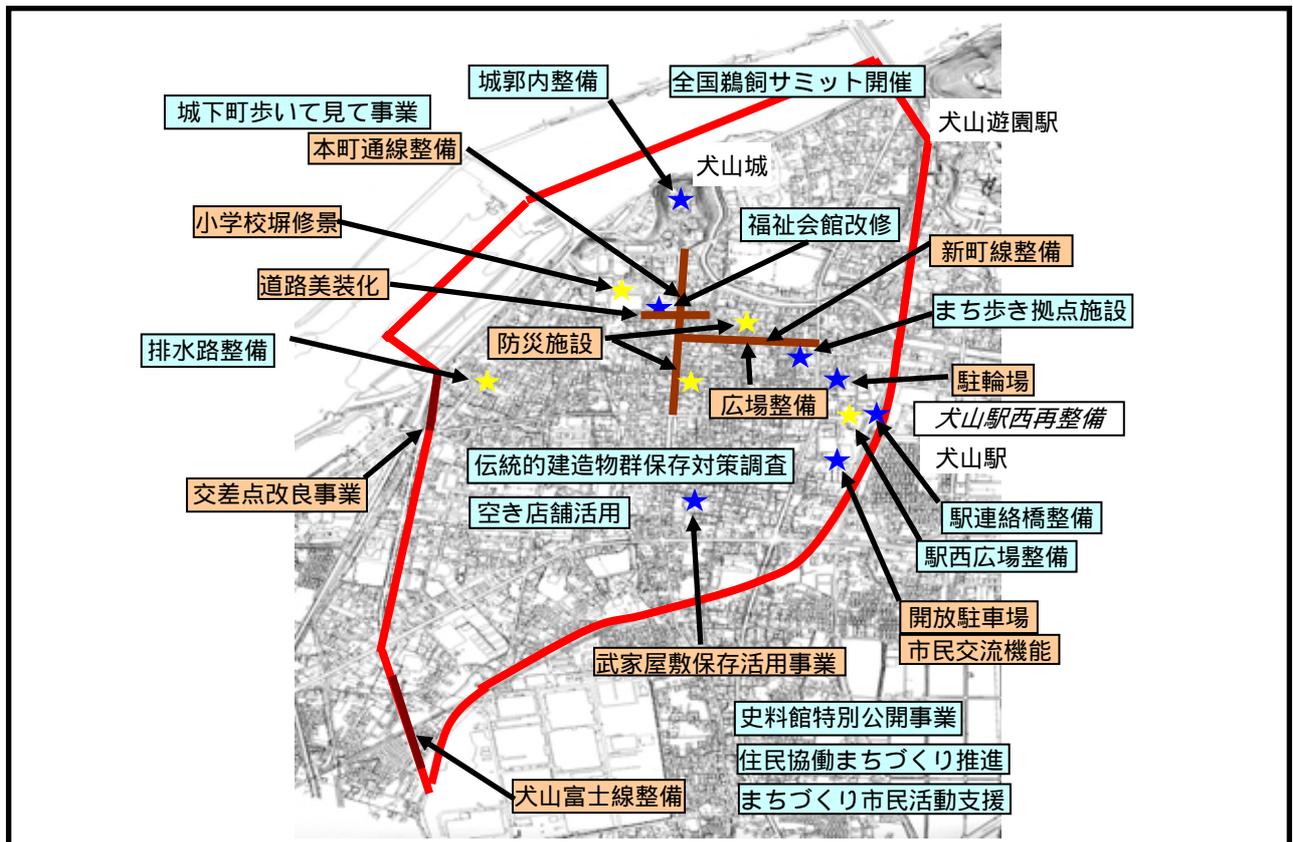
指 標

犬山城登郭者数	199,230人	(H14)	219,000人	(H20)
本町通線・新町線沿線建物改修率	17%	(H14)	25%	(H20)
中心市街地の人口減少抑止人数	6163人	(H14)	6,170人	(H20)
本町通線の歩行者数	2,482人	(H12)	3,500人	(H20)
空き家・空き店舗の解消数	68棟	(H14)	45棟	(H20)

事業内容

基幹事業(1,735百万円) 道路(交差点改良事業1ヶ所、道路整備3ヶ所 延べ1,159m) 自転車駐輪場(1ヶ所) 広場整備(1ヶ所) 地域防災施設(2ヶ所) 開放駐車場(1ヶ所) 市民交流機能整備(1ヶ所、310㎡) 武家屋敷保存活用事業(1ヶ所) 都市景観助成、道路美装化(3ヶ所) 小学校塀修景

提案事業(261百万円) 福祉会館耐震改修等、犬山駅連絡橋改修、まち歩き拠点施設整備、城郭内整備、排水路整備、伝統的建造物群保存対策調査 等



地区の現況と課題

住民との話し合いの結果「今ある、歴史的資産を活かしたまちづくりを進め、活性化に結びつける。」として都市計画道路の見直しを含めた城下町のあり方について事業方針を定めた。

城下町地区特有の狭小で複雑な街路網が集中しているため、地区の生活の安全性・快適性の確保が課題となっている。また、防災対策、中心市街地の人口減抑止策も求められている。

提案事業の特徴

城下町歩いて見て事業

空き家を利用して犬山独自の歴史ある文化「鶺鴒」「甲冑」に触れる場やイベント会場として活用する体育館等を再整備する。

城郭内整備事業

犬山城の城郭内の整備を図り、城下町地区全体としての魅力の向上を図る。

福祉会館改修事業

まちづくり活動の場であり、地域コミュニティの場、さらには地域避難所である福祉会館の耐震化等を実施する。

住民協働のまちづくり推進

地区住民と協働による「まちづくり」を進めるため、ワークショップや意見交換会、シンポジウム等の開催を支援する。

計画策定プロセス

住民協働のまちづくりの延長

本市の計画は、従来から進めてきた住民協働のまちづくりの延長線上にあり、策定にあたってはコンサル等の協力を得ず、市独自で行ってきた。

具体的な指標

目標を実現するため、建物修景数や空き店舗解消数、本町通線の歩行者数等具体的な指標を取り入れた。

町並み形成のためのルールづくり

平成15年度から、本町通線、新町線で、町並み形成に向けた伝統的建造物群保存地区、地区計画または景観法によるまちづくり制度の導入に向け、地域住民によるまちづくり組織と共に検討を進めている。

事業調整連絡会議

庁内に事業調整連絡会議を設けて事業の横断的調整や継続性を図っている。



城下町の全景



城下町歩いてみて事業(観光案内所)



城下町歩いてみて事業(甲冑工房)



住民協働のまちづくり(WSの様子)

==== 犬山市長田中志典氏のコメント =====

国が「品格のある美しいまちづくり」というビジョンを提示されたことを私は嬉しく思います。

このビジョンの中には、目先の経済や効率優先で失うものに鈍感になり過ぎてきた地方のまちづくりに対し、固有のアイデンティティの重要性を再認識する上質なメッセージを感じます。

このビジョンを受けて私ども犬山市は、先人の残してくれた歴史的まち並みである城下町再生に取り組んでいます。

まちは生命体です。過去を引き継ぎ、未来へバトンタッチする遺伝子が必ず働くものです。

まちづくりは、人の営む偉大なる行為です。